

美しい佐久島と三河湾の未来に乾杯！ 5月7日、佐久島の弁天サロンにて 「佐久島産サツマイモを使った芋焼酎の試飲会」開催

佐久島の島民団体「島を美しくつくる会」は、5月7日、「佐久島産サツマイモを使った芋焼酎の試飲会」を佐久島の弁天サロンで開催します。

島を美しくつくる会はJA西三河・西尾市とともに佐久島の新・名産品としてのサツマイモ試験栽培を平成29年度より開始。この時のサツマイモを利用した芋焼酎の試作品が、相生ユニビオ(株)の協力のもとでこのほど完成しました。この日は佐久島に関係機関の担当者が集まり、「佐久島産サツマイモの芋焼酎」を味わいます。

■開催詳細■

【日時】5月7日(月) 午後2時～2時45分

【場所】佐久島 弁天サロン

【JAの参加者】

代表理事組合長	名倉正裕
常務理事	都築敏和
営農部部长	黒野善久
営農部営農企画課係長	大島健一
営農部園芸販売課	日比敏之

他、西尾市佐久島振興課、島を美しくつくる会、相生ユニビオ(株)の担当者

※ 取材の際には、午後1時40分に一色町渡船場を出発する渡船に乗船し、午後2時57分に佐久島西港を出発する渡船にて戻る予定です。



佐久島産サツマイモの収穫(2017年11月)
このときのサツマイモの一部を利用して
作られた芋焼酎を関係者が味わう予定

■佐久島でのサツマイモ試験栽培・加工品作り

JA西三河は平成29年度より、佐久島振興の一環として、愛知県・西尾市および島民団体「島を美しくつくる会」とともに、島の新・名産品としてのサツマイモ試験栽培と加工品づくりの検討、島民への栽培普及に向けて取り組んでいます。

平成29年度は、佐久島クラインガルテン裏の圃場4.5 a でサツマイモ8品種を試験的に植え付け、11月に約500 kg を収穫しました。また9月には加工品作りの検討会を開き、県・市や醸造会社の相生ユニビオ(株)、愛知淑徳大学で地域振興を学ぶ学生らも交えて議論。学生からは「島の風景と合わせて写真に撮り、SNSに掲載したくなる商品が良い」といった意見が出ました。

今年度は品種を焼き芋・干し芋・焼酎など用途の幅広い「紅はるか」に統一し、試験栽培の面積を13 a まで拡大。また、島民の希望者5人が自分の畑でサツマイモ栽培を開始します。十分な収量があれば、焼き芋・干し芋の原料や、佐久島の飲食店でスイーツなどの食材として利用される予定です。



【お問い合わせ・ご連絡先】

JA西三河(西三河農業協同組合)

〒445-0073 愛知県西尾市寄住町下田15 企画室企画課 広報担当: 岡田健太郎

TEL: 0563-56-5214 担当者携帯: 070-1414-4251

HP: <http://www.ja-nishimikawa.or.jp/> Eメール: kikaku@ja-nishimikawa.com

佐久島の新名産品ねらう 「さくまいも」プロジェクト

■佐久島の現況

佐久島は現代アートや潮干狩りなどにより年間観光客数10万人を数える、西尾市でも随一の人気観光地です。住民は主にアサリを中心とする水産業・観光業で生計を立てていますが、近年はアサリの漁獲量が下がり、その先行きが危惧されています。

また島内で販売される名産品や土産物が少なく、観光客の増加が島民の収入と結びついていない面もあります。

■「島づくりのNEXTステージ」プロジェクト

島を美しく作る会は2016年度より、佐久島への移住・定住・交流促進事業「島おこしのNEXTステージ」をスタートさせました。同プロジェクトは下記の3つの柱からなっています。

- ①農産物の栽培から収穫体験と移住後の生活に結び付ける取り組み
- ②古民家を利用した定住促進PRと島の自然体験ツアー
- ③島民交流によるコミュニティの活性化と島の新たな「目玉」事業づくり

プロジェクトには、西尾市・周辺市町の企業や市民団体・NPOなどが数多く参加。JA西三河は農業分野である「農産物の栽培から収穫体験と移住後の生活に結び付ける取り組み」に参画し、その一環としてサツマイモ栽培などの新たな農業名産品とその加工品づくりを行うこととしています。

■さくまいもプロジェクト

——佐久島の新名産品を作れるか？

島を美しく作る会とJA西三河・西尾市は、「さくまいもプロジェクト」と題して、佐久島でのサツマイモの生産・加工品作りと観光客向けの販売に向けて動き始めました。観光振興を島民収入につなげ、島の経済活性化とともに、魅力PRを通じた定住拡大を行うことが狙い。これにむけてJA西三河はサツマイモの栽培計画作りと苗の調達、島民への栽培の普及と栽培指導、集出荷と販売ルートの構築などを担うこととなりました。

まずは平成29年度、島の地質に適するサツマイモの品種を選定するため、佐久島ラインガルテン北側の畑約4.5㍓で栽培試験を実施。6月に島民らと協力のもと、サツマイモ8品種・1200本のイモつるを植え付けました。11月には500^{kg}のサツマイモを収穫。また加工品作りに向けて9月、島民・JA・西尾市と味醂・酒類を製造する相生ユニビオ(株)、愛知淑徳大学の学生らをまじえた検討会を開催。翌2018年5月には、初の試作品である佐久島産サツマイモを利用した芋焼酎の試飲会を開きました。

平成30年度には試験栽培を13㍓まで拡大し、品種も「紅はるか」に統一。今後は島民への栽培普及や出荷・販売ルートの構築を行う予定。またJAでは、サツマイモ以外の新たな農業名産品作りも検討しています。



イモつるの植え付け（2017年6月）



市・JA・相生ユニビオ・島民団体・学生が新たな名産品作りを話し合う（2017年9月）



佐久島産サツマイモの収穫（2017年11月）

JA西三河の佐久島振興策 ～離島のライフライン・暮らしに欠かせない存在として～

■ JA西三河佐久島店のはたらき

JA西三河佐久島店は、島の生活インフラの担い手として、島民・組合員の生活に貢献しています。

佐久島にある金融機関は郵便局を除けばJA西三河のみ。支店のATMは口座振込などの資金決済などに役立てられています。また新鮮な野菜が届きにくい島民の多くは家庭菜園を営んでおり、JAは野菜苗や肥料の供給を通じて島の暮らしを支えています。

また佐久島店では、Aコープ一色店への食料品の注文を取りまとめ、一括して発注。商品が渡船に乗って届く火曜日・金曜日には、商品の受け取りに多くの利用者が佐久島店を訪れます。



Aコープの商品を受け取りに佐久島店を訪れた利用者

■ 「組合員の集い」、佐久島の保育園・小中学校へ新米寄贈

毎年9月には、佐久島店で「組合員の集い」を開催し、代表理事組合長をはじめとする役員が佐久島を訪れてJA事業の概況を説明。同日は「組合員感謝祭」として地元産の米や果物、花や鮮魚、日用品などの即売会を開き、佐久島店は非常に多くの組合員でにぎわいます。

また、佐久島小学校・中学校へ新米を寄贈することも恒例行事。西尾で採れた新米を寄贈しています。2017年度より佐久島保育園へも寄贈を開始。島の子どもたちのすこやかな成長を応援しています。



米を贈るJAの名倉組合長（後列中央）と、佐久島小の黒柳校長（後列左2人目）、佐久島中の牧野校長（後列左端）、佐久島小5・6年生の児童ら（2017年9月）

■ 島を拓くトラクター

佐久島のJA組合員・利用者からは、農業者の減少から佐久島における田畑が耕作放棄地となっていることを問題視する意見、解決への要望がJAに寄せられていました。

これを受けてJA西三河は2016年12月、西尾市に向けて行った農業政策に関する要請の中に「佐久島における耕作放棄地の対応」を設けました。またその働きかけとして2017年の4月、農業用トラクター1台を西尾市を通して佐久島へ寄贈しました。

このトラクターはこれまでに、島民団体の管理のもと、島の耕作放棄地の耕起と農地作り、景観植物の植栽地づくりなどに活用されました。今後はサツマイモ栽培のための農地拡大にも利用される予定です。



トラクターを寄贈するJAの名倉組合長（中央）と西尾市の榊原市長（左）、島を美しくつくる会の鈴木代表（右）（2016年12月）

※2017年度より市・島民団体とともに取り組む「さくまいもプロジェクト」については前ページを参照ください